

第 23 回 IAPH 総会（世界港湾会議）の概要報告

今回は、IAPH として初めてアフリカの地で総会が開催されましたが、染谷会長にとって総仕上げの総会でもありました。イラク情勢等により開催が懸念されましたが、世界 64 ヶ国から 950 名（展示会出展者約 200 名を含む）を超える参加者があり、盛況裡に終わることが出来ました。

遠隔の地であることもあり、わが国からの参加が少ないのではないかと懸念されましたが、国土交通省港湾局および日本港湾協会から呼びかけをいただいたこともあり、直前に SARS 問題が発生したにもかかわらず、同伴者 9 名を含め、49 名の方々にご参加いただきました。

また、先般日本国内で国際港湾協会日本会議が発足したのにもとない、技術委員会にも積極的にご出席いただきました。

以下、概要を報告します。

1. 総会のあらまし

- 1.1 会期：2003 年 5 月 24 日（土）～5 月 30 日（金）
- 1.2 会場：南アフリカ共和国 ダーバン市 国際会議場
- 1.3 総会テーマ：「Ports- The Catalytic Impact Uniting World Economies through Ports and Harbours」（港湾 - その起爆的効果：港湾を通じた世界経済の連携を目指して）
- 1.4 総会ホスト：南アフリカ国家港湾庁（Mr. Siyabonga Gama CEO・IAPH 総会副会長）
- 1.5 参加者数：64 ヶ国、代表者 432 名、同伴者 149 名

2. 総会の構成

- 2.1 開会式（5 月 26 日）
- 2.2 特別講演
 - 南ア 公共企業大臣 Honorable Jeff Radebe (5/26)
 - 南ア 経済産業大臣 Honorable Alec Erwin (5/26)
- 2.3 第 1 全体会議（5 月 27 日）
- 2.4 第 1～第 5 ワーキング・セッション（5 月 26 日～29 日）
 - 第 1 作業部会：「グローバルな経済・通商の予測と挑戦」（5/26）
 - 第 2 作業部会：「世界の海運と物流の現状」（5/27）
 - 第 3 作業部会：「IT、物流および技術の革新が港湾に与える影響」（5/27）
 - 第 4 作業部会：「港湾の保安と環境管理」（5/28）
 - 第 5 作業部会：「未来への挑戦」（5/29）
- 2.5 第 2 全体会議（5 月 29 日）
- 2.6 ダーバン港視察・リチャーズベイ港視察（5 月 30 日）

3. 理事会・各種委員会

- 3.1 各技術委員会（5月24日）
- 3.2 技術委員会グループ会議（5月24日、25日）
- 3.3 地域別理事会（5月25日）
- 3.4 全体理事会（5月25日）
- 3.5 オープンフォーラム（5月28日）
- 3.6 総会后 / 理事会（5月29日）

4. 第1、第2全体会議の主要事項

4.1 2003 / 2005 年の体制の決定

- 会長 Mr. Peter Struijs (Rotterdam, オランダ)
- 第1副会長 Mr. Thomas Kornegay (Houston, 米国), [米州地域担当]
- 第2副会長 Datin Paduka O.C. Phang (Port Klang, マレーシア), [アジア/
オセアニア地域担当]
- 第3副会長 Mr. Siyabonga Gama (National Ports Authority, 南アフリカ),
[アフリカ/欧州地域担当]
- 直前会長 染谷 昭夫氏(名古屋港管理組合, 日本)
- 総会副会長 Mr. Lu Haihu(上海国際港務集团公司総裁、中国)
- 事務総長 井上 聡史氏(本部事務局)
- その他の委員会等については、別紙参照。

4.2 2005 年第 24 回総会の正式招請

今回は、SARS 問題により上海からの出席がなかったため、プレゼンテーションは行われず、上海港、Lu 総裁からの招請状を O. C. Phang 副会長が読み上げるだけであった。
開催地：中国、上海市
会期：2005 年 5 月 21 日(土)～27 日(金)

4.3 2007 年第 25 回総会開催地(Americas Region)の決定

米国 Houston 港より招請があり、承認された。

4.4 Constitution and By-Laws の改正

要点は、副会長選出にあたり、各地域の意志の最大限の尊重と民主的な手続の確保、理事会、常任委員会の任務の見直し、各種手続の簡素化の3点で、創立以来の大規模な改正となった。

4.5 予算案：2003 / 2004 年度予算案を承認

4.6 対外活動：IAPH/IMO Interface Group として活動してきたが、ILO, UNCTAD, WCO 等、その他の関連国際機関との連携を総合的に推進するため、発展的に解消して International Liaison Group として発足することになった。

4.7 長期計画委員会：協会活動の強化策として、技術委員会活動の一層の活性化を図ることになり、今後会員ニーズの定期的な調査等を実施していくことになった。

4.8 創立 50 年記念事業：IAPH は 2005 年に創立 50 年に達するので、Taddeo 元会長 (Montreal)を委員長とする委員会を結成し、記念事業を案画することになった。

5. その他の主要事項

5.1 最新の会員数：世界 84 ヶ国から、正会員 227 および賛助会員 123(2003.4.10 現在)

5.2 名誉会員およびその他の表彰：

名誉会員 Mr. John Hayes(故人), Sydney Ports Corporation, Australia

Mr. Hugh Welsh, the Port Authority of New York & New Jersey, USA

Mr. David F. Bellefontaine, Halifax Port Authority, USA

染谷 昭夫氏, 名古屋港管理組合, 日本(直前会長)

Mr. Patrick Keenan, Port of Cork Company, Ireland

Mr. Goon Kok-Loon, PSA Corporation Limited, Singapore

近藤 麟之助氏, IAPH 本部事務局, 日本

会長表彰 Mr. Sumardi, Indonesia Port Corporation, Indonesia

Dr. Hans L. Beth, Port of Hamburg Marketing Association, Germany

武田 公子(故人), IAPH 本部事務局, 日本

イェンテラ(秋山賞) Mr. Nelson C. Mlali, Tanzania Harbour Authority, Tanzania

(2 位) Mr. Raouf Y. Ali, Point Lisas Industrial Port Development

Corporation, Trinidad and Tobago

(3 位) Mr. S.H. Rachmanto, Indonesia Port Corporation, Indonesia

IAPH/IT 賞(金牌) Kenya Ports Authority, Kenya

(銀牌) Abu Dhabi Seaport Authority, UAE

(銅牌) Free Port of Riga Authority, Latvia

6. 今後の会議予定

2003.10.26 – 30	常任理事会 (Exco)	ロッテルダム (オランダ)
2004.春	中間年理事会(Mid-term Board)	チャールストン (米国)
2005.1	常任理事会 (Exco)	横浜 (日本)
	(50 周年記念の第一声を日本であげる)	
2005.05 月	第 24 回世界港湾会議	上海(中国)
2007.春	第 25 回世界港湾会議	ヒューストン (米国)

以 上